

4. 刊行物、主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

4.1. 刊行物

気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

研究成果の学術的な公表を目的とした論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論 (レビュー) を掲載している。主な配布先は、国の内外の研究機関・大学、気象官署などで、国立国会図書館でも閲覧することができる。

平成 17 年度からは、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム”J-STAGE” に登録し、オンライン発行とした。

J-STAGE URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

平成 26 年度は第 65 巻を発刊し、次の論文を掲載した。



第 65 巻

- ・清野直子, 中野辰美, 能登美之, 大野恭治: ゾンデ飛翔予測プログラムの精度検証と TOMACS 観測への適用
- ・仲江川敏之, 鬼頭昭雄, 楠 昌司, 村上博之, 荒川 理: Hydroclimate changes over Central America and the Caribbean in a global warming climate projected with 20-km and 60-km mesh MRI atmospheric general circulation models
- ・小山 亮: Estimation of tropical cyclone central pressure from warm core intensity observed by the Advanced Microwave Sounding Unit-A (AMSU-A)
- ・北畠尚子, 星野俊介, 櫻木智明: TRMM/TMI 輝度温度の非対称分布を考慮した台風強度推定
- ・新堀敏基, 甲斐玲子, 林 洋介, 林 勇太, 菅井 明, 長谷川嘉彦, 橋本明弘, 高木朗充, 山本哲也, 福井敬一: 領域移流拡散モデルによる降下火砕物予測 —2011 年霧島山 (新燃岳) 噴火の事例—

気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。主な配布先は、国立国会図書館、国内の研究機関・大学、気象官署などで、気象研究所ホームページ (<http://www.mri-jma.go.jp/>) でも閲覧することができる。

平成 26 年度の発行はなし。



4.2. 発表会、主催会議等

・ 気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年1回開催している。平成26年度は、平成27年3月5日（木）に一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）で開催し、以下の研究成果について発表した。

【報告題目】

- ・ 御嶽山噴火 ―水蒸気噴火のメカニズム解明に向けて―
報告者：横山博文（火山研究部 部長）
- ・ 南海トラフ沿い巨大地震は予知できるか？ ―地震発生シミュレーションからの知見―
報告者：弘瀬冬樹（地震津波研究部 研究官）
- ・ 竜巻等突風の探知 ―フェーズドアレイレーダーが切り拓く世界―
報告者：楠 研一（気象衛星・観測システム研究部 室長）
- ・ 集中豪雨の発生メカニズム解明に向けて ―平成26年8月20日広島豪雨事例―
報告者：加藤輝之（予報研究部 室長）
- ・ 温暖化に伴い強雨は増えるのか？ ―アメダス観測が示す気温と強雨の関係―
報告者：藤部文昭（環境・応用気象研究部 部長）
- ・ CONTRAIL プロジェクト ―大型旅客機による地球規模の温室効果ガス観測―
報告者：松枝秀和（海洋・地球化学研究部 室長）

・ 第12回環境研究シンポジウム「気候変動と科学技術 ～考えよう地球の未来！～」

「環境研究シンポジウム」は、気象研究所を含む13の環境研究に携わる国立試験研究機関、国立大学法人及び独立行政法人が参加する「環境研究機関連絡会」が主催する公開シンポジウムで、毎年、決まったテーマの下で、参加する研究機関が成果の発表を行っている。平成26年度は平成26年11月18日（火）に一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）において開催され、気象研究所は以下の講演及びポスター発表を行った。

【講演】

講演名：巨大火山噴火が気候・生態系へ及ぼす影響：地球システムモデルによる予測
講演者：小畑 淳（気候研究部 主任研究官）

【ポスター発表】

- ① 豪雨や台風、竜巻の予報精度向上を目指す取り組み
- ② 巨大火山噴火が気候・生態系へ及ぼす影響：地球システムモデルによる予測
- ③ 近年の異常気象に対する地球温暖化の寄与
- ④ 2013年台風第30号（ハイヤン）の数値シミュレーション
- ⑤ 巨大火山噴火が中層大気の大循環・化学過程へ及ぼす影響
- ⑥ 地域気候モデルが予測する日本の地域詳細な気候変化
- ⑦ ブラックカーボンの粒径分布、混合状態、粒子形状に関する観測およびモデルによる研究
- ⑧ 全球移流拡散モデルによるカルデラ噴火時の降灰シミュレーション